

# 「京都を学ぶセミナー丹波編」第9回（開催報告）

平成31年1月8日  
京都学・歴彩館  
075-723-4835

平成28年度から開始した「丹波の文化資源」研究プロジェクトの成果を、分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【丹波編】」の第9回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

## 記

- 日 時 平成31年1月8日（火）13:30～15:00
- 会 場 京都府立京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 165名
- 内 容  
講 演 京都府立大学大学院 教授 大場 修氏  
「丹波地域を彩る民家と町並み-その歴史と魅力をさぐる-」

## ■ セミナーの様子と当日の参加者の声

冒頭、妻入や平入、入母屋造り、切妻造り、寄棟造りなど民家の形式について基本的な用語の説明がなされた。近畿地方の民家は多彩な系譜をもつが、そのなかで特に北山型と撰丹型を取り上げた。北山型民家と撰丹型民家の違いはその家屋配形式にある。

国内で年代が確認できる最古の民家、石田家住宅（重文、南丹市美山町、1650年）は北山型の最も古い民家である。北山型の妻入と平入民家が混在する地域として、美山かやぶきの里（南丹市美山町）や八木町神吉が紹介された。特に神吉地区は平入民家が多く、平入でも妻入の入り口を残し続けたり、主屋の他に多くの付属屋で屋敷を構成しているという特徴がある。他方、神吉地区に近接する越畑地区（京都市右京区）は撰丹型に分類される。家屋の片側が土間で町家の通り庭に似た形式を有する。北山杉の産地である京都市北区中川北山町では、谷間の集落で十分な敷地がとれないことから北山型妻入民家が残っており、その結果妻飾りが発達し巨大化したなど、写真資料を豊富に用いながら丹波地域の民家の多様性について講演された。

若い世代の参加者も多く、「美しい民家の写真に感動した」「具体的な話で面白かった」という感想のほか、「今回の講演の続編を期待したい」という要望も寄せられた。

